

東芝三菱電機産業システム株式会社

～中国事業体制を強化、鉄鋼向け電機設備を連続受注～
中国宝山鋼鉄より熱間圧延用電機設備を受注

東芝三菱電機産業システム株式会社(社長:松山 功武)は、中国最大の製鉄会社である宝山鋼鉄股份有限公司(上海市)より、同社の第3熱間圧延用電機設備を約 100 億円で受注致しました。今回の第3熱間圧延設備は、成長著しい中国市場での鉄鋼需要拡大に対応したものであり、年産約 370 万トンを計画しています。2006 年 7 月から据付工事を始め、2007 年 7 月に生産を開始する予定です。

当社は 2003 年 10 月に株式会社東芝と三菱電機株式会社の産業部門の合併会社として設立以降、中国において、通化鋼鉄(集団)有限公司(吉林省)向け熱間圧延設備をはじめ、広州聯衆鋼鉄(広東省)、馬鞍山鋼鉄(安徽省)向けなど、複数の鉄鋼プラント用電機設備を受注しており、総受注金額は約 350 億円となり、この分野での世界トップクラスのシェアを確保しています。

これらの受注は、高度な技術力が求められる熱間圧延設備における当社の最新の技術力とこれまでの数多くの実績が認められ、世界トップクラスのメーカーであると評価されています。

また、会社設立以降、当社は統合機種の開発・市場投入、事業所の再編、販売・生産システムの統合化により競争力の強化に努めており、国内外でのさらなる事業拡大を目指しています。

海外事業においてはグローバル化を推進し、特に現在活況である中国市場における事業体制強化のため、上海宝菱電気制御設備有限公司に加え、2004 年 2 月に UPS(無停電電源装置)の製造合併会社である広州東芝白雲菱機電力電子有限公司、同年 10 月に業界初の 100%出資のエンジニアリング会社である東芝三菱電機工業系統(北京)有限公司を設立し、現地化を進めてきております。

今後は、インバータ装置の現地生産、電動機の技術提携による生産を計画しており、中国市場の状況に応じた事業展開力並びに製品競争力のより一層の強化を図り、高品質のシステム製品、ソリューションを提供いたします。

＊ 宝山鋼鉄向け第3熱間圧延用電機設備の主な特徴

1. 高力率、高調波低減、高効率を実現した統合ドライブ装置(TMdrive シリーズ)の採用により、クリーンな電源で、省エネルギー、省スペースのシステムを実現します。
2. 情報系と制御系のシームレス接続を実現した Time Critical 大容量高速制御ネットワーク(TC-net100)制御システムの採用により、高性能で保守性の良いシステムを提供します。